



東京都立五日市高等学校

令和5年度芸術鑑賞教室

出演

メゾソプラノ 石田 滉 (いしだ きらら)

管弦楽 プラネット・テラオーケストラ

令和5年12月18日 (月)

18:30開演

東京都立五日市高等学校体育館

ごあいさつ

本日は、令和5年度東京都立五日市高等学校芸術鑑賞教室に御来校くださり誠にありがとうございます。この鑑賞教室は東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の支援を受け、あきる野市教育委員会の後援により、今年度はプラネット・テラオーケストラをお迎えして、管弦楽を鑑賞することとなりました。

本校は今年度創立76周年を迎える全定併置校であり、「愛情」「良識」「勤勉」を教育目標に掲げ、「広い視野を持ちながら、新しい社会に対応するとともに地域貢献できる生徒」の育成を目指しています。令和3年度より令和6年度まで東京都教育委員会から「地域探究推進校」として指定を受け、毎年夏に行われる地域のお祭り「ヨルイチ」や和太鼓サークル「小和田佳月」の指導による和太鼓の演奏を地域の行事で披露し、密接な地域連携を通して、地域に貢献することができるよう教育活動を実践しています。

本日の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」もその一環であり、地域の方々にもご来場いただき、本校生徒と共に素晴らしい演奏をお聞きいただきたいと思います。企画いたしました。

コロナ感染症も5類相当となり制約もなくなった環境下での開催です。普段あまり聴く機会のない管弦楽を皆さんと一緒に楽しみましょう。

令和5年12月18日

東京都立五日市高等学校長 松崎真理子

本日のプログラム

R. ワーグナー:『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より前奏曲

P.I. チャイコフスキー:『くるみ割り人形』よりトレパック

P.I. チャイコフスキー:『白鳥の湖』より 情景

W.A. モーツァルト:『コジ・ファン・トゥッテ』よりアリア「恋は小さな泥棒」

岡野貞一: ふるさと

文部省唱歌: 仰げば尊し

L. アンダーソン: そりすべり

石川亮太(編曲): クリスマスファンタジー

G. ビゼー:『カルメン』より抜粋

芸術鑑賞教室プログラムノート

R. ワーグナー:『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より前奏曲

ドイツの作曲家リヒャルト・ワーグナーが1868年に完成させた楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は、16世紀中ごろのドイツの都市ニュルンベルクを舞台とし、実在したハンス・ザックスという人物を中心にマイスタージンガーと呼ばれた職人歌手をめぐるストーリーが展開されます。

今回演奏する第1幕への前奏曲は、劇中の主要なメロディの数々が魅力的に要約されており、わずか10分ほどで楽劇全体のエッセンスを楽しむことができるため、一つの独立した楽曲としても非常に人気があります。

ところで「マイスタージンガー」とは、中世ドイツにおいて、手工業の親方で同時に作詞作曲家や歌手として師匠格である者に与えられる称号であり、ザックスもその1人でした。ワーグナーは、ものづくりの傍らで自らの芸術にも情熱を注ぐ彼らに焦点を当てることで、ドイツ芸術の永遠の素晴らしさを表現したのです。

豊かで華やかなオーケストラの使い方が特徴で、歌手たちの競争、恋愛、そして祝祭の雰囲気盛り上げます。様々なテーマが絡み合い、最後には力強く華麗なクライマックスへと導かれる音楽構造には「楽劇王」と呼ばれたワーグナーの才能が光ります。以下に掲載する特徴的なメロディをご堪能ください。

①マイスタージンガーのメロディ

冒頭から全員で演奏される、最も重要なメロディです。マイスタージンガーの威厳を表す動機として幾度となく登場します。



③マイスタージンガーの芸術のメロディ

クライマックスの場面でザックスがドイツ芸術の素晴らしさを説く場面などで使われています。



P. I. チャイコフスキー:『くるみ割り人形』よりトレパック

『くるみ割り人形』はロシアの作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキーが1892年に完成させたバレエ音楽です。第2幕で演奏される「トレパック」はロシアの活気に満ちた踊りを表現したもので、エネルギッシュな存在感を放ちます。速いテンポとリズミカルな打楽器の使用が特徴で、躍動感あふれるメロディがバレエダンサーたちの力強いジャンプやカリスマ的な動きを引き立てます。様々な国のダンスミュージックが披露される『くるみ割り人形』の中でも、チャイコフスキーはロシアの民族的な色彩をバレエの華麗な世界に落とし込み、観客を魅了する華やかな瞬間を提供しています。

P. I. チャイコフスキー:『白鳥の湖』より 情景

1877年に作曲された『白鳥の湖』は、チャイコフスキーが初めて完成させたバレエ音楽です。今回演奏する「情景」は、物語の幕が開き、静かな湖のほとりで夜が明ける様子を描いたもので、湖面を照らす月明かりと、悲しい運命を背負った白鳥たちの優雅な踊りを思い起こさせます。オーボエによる美しい旋律がこの幻想的なシーンをリードし、弦楽器が湖の静けさと神秘性を強調します。この作品は、バレエの中でも最も象徴的で感情的な部分であり、観客を魔法のような物語の世界へとといざないます。チャイコフスキーは、この音楽でロマンティックながらもどこか憂いを含んだ雰囲気巧みに作り上げており、後の悲劇的な展開をも予感させます。

W. A. モーツァルト:『コジ・ファン・トゥッテ』よりアリア「恋は小さな泥棒」

『コジ・ファン・トゥッテ』は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが1790年に作曲したオペラ・ブッフア(喜歌劇)です。タイトルは「女はみんな、そのようにする」という意味で、恋愛と忠誠のテーマを軽妙に扱っています。今回演奏する「恋は小さな泥棒 (È amore un ladroncello)」は、第2幕でドラベッラが歌うアリアで、恋愛がいたずらな小さな泥棒のように私たちの心を盗み、予期せぬ行動に駆り立てるという比喩が歌われます。モーツァルトは、軽快で親しみやすい旋律にこのメッセージを乗せてその不確かさと変わりやすさを表現しています。

岡野貞一: ふるさと

岡野貞一によって1937年に作曲された「ふるさと」は、日本の唱歌の中でも特に愛されている楽曲の一つです。日本の自然や風土を賛美し、遠く離れたふるさとの風景を懐かしむ歌詞は、美しい自然や幼い頃の記憶を温かく歌い上げています。メロディーはシンプルでありながらも心に響き、多くの日本人にとって心のふるさととも呼べるような存在です。岡野貞一はこの曲を通じて、故郷への深い慕情と、そこに根付く文化や絆の大切さを伝えています。

兎追ひしかの山、
小鮒釣りしかの川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷

如何にいます父母、
つつがなしや友がき、
雨に風につけても、
思ひいづる故郷

こころざしをはたして、
いつの日にかかへらん、
山はあをき故郷、
水は清き故郷

文部省唱歌: 仰げば尊し

「仰げば尊し」は、日本の学校歌として広く知られている曲です。1884年に発行された「音楽取調掛編纂 小学唱歌集 第三編」に収められ、文部省唱歌として多くの学校の卒業式などで、教育を受けることの価値と、それを支える人々への感謝の気持ちを伝えるために歌われました。恩師への感謝と尊敬の念を表現した歌詞は、教師と生徒との絆の深さを象徴しています。メロディはドイツ民謡に基づいていて、後から日本の歌詞がつけられました。シンプルながらも心に残るメロディと歌詞は、多くの日本人の記憶に深く刻まれており、教育史上重要な位置を占めています。

あおげば 尊し わが師の恩
教えの庭にも はや幾年
思えば いと疾し この年月
今こそ 別れめ いざさらば

互いにむつみし 日頃の恩
別るる後にも やよ忘るな
身を立て 名をあげ やよ励めよ
今こそ 別れめ いざさらば

朝夕 馴にし まなびの窓
螢のともし火 積む白雪
忘るる 間ぞなき ゆく年月
今こそ 別れめ いざさらば

L. アンダーソン: そりすべり

「そりすべり」はアメリカの作曲家、ルロイ・アンダーソンが1948年に作曲した管弦楽曲です。クリスマスの時期によくBGMとして使用され、アンダーソンの作品の中でも特にこの曲は代表作の一つとされています。終始スレイベルと呼ばれる打楽器が鳴り続け、曲の雰囲気を決定づけます。また、馬が走る音、鞭の音が様々な打楽器によって表現されており、アンダーソンの音楽的才能とオーケストラ音楽の魅力を広く伝えています。

石川亮太(編曲): クリスマスファンタジー

石川亮太編曲による「クリスマスファンタジー」は、クリスマスを象徴する楽曲を繊細かつ華やかに織り交ぜたメドレーです。「ジングルベル」「ホワイトクリスマス」「きよしこの夜」「赤鼻のトナカイ」「もろびとこぞりて」といった定番のクリスマスソングを包含し、それぞれの曲に異なるアレンジを加えることで、独特の響きと新鮮な感動を生み出しています。様々な楽器の魅力を活かしつつ、クリスマスの喜びと温もりを音楽を通じてお届けします。

G. ビゼー: 『カルメン』より抜粋

- ト 前奏曲
- ト アラゴネーズ
- ト ハバネラ
- ト 闘牛士の歌
- ト アルカラの竜騎兵
- ト セギディーリャ
- ト 闘牛士

フランスの作曲家、ジョルジュ・ビゼーのオペラ『カルメン』は、1875年に初演された作品です。スペインのセビリアを舞台に、自由奔放な女性カルメンと彼女に翻弄される男性たちの激しい情愛と悲劇を描いています。カルメンは、囚われの身でありながら、恋多き女性としての自立と自由を貫き、それが結果的に彼女の運命を暗転させます。情熱的なメロディとリズム、そして強烈なキャラクター描写により世界中で愛され続け、「ハバネラ」や「闘牛士の歌」といった曲は名アリアとして広く知られています。オペラ史上に残る不朽の名作として、今日も多くの人々に感動を与えています。

出演者紹介

石田 滉 Kilara Ishida メゾソプラノ

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院オペラ専攻を首席修了。第25回日本クラシック音楽コンクール最高位。第2回新進音楽家コンクール第1位。公益財団法人千葉県文化振興財団平成30年ちばソリストオーディション最優秀賞。第90回日本音楽コンクール声楽部門第3位。第41回ハンスガボア・ベルヴェデーレ国際コンクール日本代表。園田隆一郎指揮藝大オペラ《フィガロの結婚》ケルビーノ役デビュー後、《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベツラ、《エトワール》ラズリ、《湖上の美人》アルビーナ等を演じ、その他のコンサートではベートーヴェン《第九》、モーツァルト《レクイエム》《ハ短調ミサ曲》《ヴェスペレ》、ロッシーニ《スターバト・マーテル》、マーラー《大地の歌》等、ソリストを多数務める他、現代音楽の新曲初演も行う。春日保人、三縄みどり、櫻田亮、ルーカ・ゴルラ、エリザベス・ノルベルグ=シュルツの各氏に師事。日本声楽アカデミー会員。

プラネット・テラ オーケストラ プロジェクト

2014年に首都圏の音楽学生によるユース・オーケストラとして活動をスタートし、2023年、10周年を迎える節目にプラネット・テラ オーケストラ プロジェクトとして新たなスタートを切りました。アソシエイト・アーティストを中心に、国内外で活躍する新進気鋭の若手プロフェッショナルによって構成されています。自主公演やCDアルバム制作の他、都内のアマチュア団体や自治体からの依頼を受け、演奏活動を行っています。室内楽から大編成のオーケストラまでフレキシブルな形態の演奏を行い、名曲だけではなく、他ではなかなか聴くことの出来ない、演奏機会の少ない楽曲を中心に活動を行なっている事も特徴のひとつです。